第 2012-19 号

恵みと真理のニュース

2012 年 10 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ お祈りにご応答頂き、主の為の仕事に努めさせて頂いており、感謝します。

私は1978年結婚して次々と3名の娘を出産しました。5人兄弟の長男の嫁として私はぜひ男の子が産みたく切なる心からよくお寺に行って供養をして、更には巫女をたずねて占ってもらったりお守りも使ってみたりしましたが、何の効果もありませんでした。その当時、多くのクリスチャンが私の家に伝道に来ましたが、頑強に拒んで玄関払いをしました。
どころで、近くに住む友人のひっきり無しの勧めで1992年１月５日に恩恵と真理教会に初出席、礼拝をささげました。初めの2、3の間は信心もなく、単に日曜礼拝だけ儀礼的にささげていましたが、平日礼拝もささげるようになってからは次第に信心が成長し始めました。天地を創造された神様、私たちの罪のあがないに死なれたイエスキリスト、天国と地獄について確実な認識と信心を持つようになりました。
1997年には区域長の役職をいただきました。区域長に任命される時、当会長の趙鏞睦牧師より按手祈祷を受けると、涙が出て胸が一杯になって神様のくだされる喜びが湧いてきました。私の長女と三女は私より３年先に恩恵と真理教会に出席、イエスを信じて聖歌隊員に教会学校の教師に奉仕をしました。後で分かりましたが、娘たちが両親の救援のためにたくさんお祈りをしたそうです。
かつて引越しのために荷物を取り片付けていた中、偶然長女の日記帳をみてしまいました。娘の日記には母を伝道してくれた方に感謝しているという内容がありました。その瞬間、私が以前お寺に通っていた際、教会に出るといって長女を憎んで殴ったことが思いついて、娘にすまない気がしてさめざめと泣きました。私のひどい責めにもかかわらず、あくまで教会に出席してしっかりと奉仕して信仰を守ってくれた娘がえらくてすまないと思ったからです。
舅姑も偶像を捨てて私より先にイエスキリストを信じて救援を受けました。いつも我が家族の救援のためにいっしんにお祈りをしてきただけに、私がイエスキリストを信じるようになったことを聞いてとても喜んで、私に聖書をプレゼントしてくれました。
私は30代に不慮の事故にあって頭に怪我をして片目の視神経が損傷されてしまって、別の片目で世の中を見てきました。片目のみ使ってきていたら、だんだんその目の視力が落ちて夜には外出するのが大変で、路頭で知人に会っても見分けられないでそのまま通り過ぎてしまって誤解されたこともありました。落ちた視力でもっとも苦しくて悲しかったのは区域礼拝を捧げる時に恩恵と真理教会の週間新聞の字がよく見えないことでした。
“主よ、何卒区域長の仕事がよく出来ますよう助けてください。これ以上視力が悪くならないようにしてください。”と泣きながら切にお祈りしました。
多くの有名な病院に行って検査してもらいましたが、まったく希望がありませんでした。そんな私に神様には奇跡を恵んでくだされました。医療宣教奉仕をする先生に合わせていただいて検診を受けられるようになったのです。検診後に“手術を受ければ0.5の視力まで出られます。”といわれて、希望をくだされました。
2010年8月30日、ついに手術を受けて視力が0.9まで回復されました。 ハレルヤ ！
先生と看護師たちは期待以上の結果といって祝ってくれました。手術を行った先生は手術がわずか2年遅くなったら完全に視力を失ってしまったでしょうといいました。これは全く神様のご恩恵と信じています。
20年間よく見えない目でつらく生きてきた私に神様の摂理で明るい世の中を見られるようになったうえ、喜んでもっと頑張って主の仕事に努めさせるとは更に感謝申し上げます。
今年は私に感謝すべきことがたくさんありました。資格のない私に伝道賞と首区域長の役職までくだされました。主から任せていただいた役職と使命にいつも感謝して“せっせとお前の羊の群れの様子をうかがい、お前の牛の群れを気にかけろ。”との主のお言葉を心に留めてお祈りしながら、区域をよくみて一人でも救援を得られるように努めます。そこで、神様を喜ばせて差し上げて神様の栄光を現す私の人生になれるようにお祈りします。
私と我が家族を救援して尊い主の仕事を任せていただいて、一番よい時に一番よい方法で一番よいもので私のお祈りに応答してくだされる神様に感謝と賛美と栄光を差し上げます。

［信仰コラム］ キリスト者の特徴十点

“…丸一年の間その教会に一緒にいて多くの人を教えた。このアンティオキアで、弟子たちが初めてキリスト者と呼ばれるようになったのである。”（使11：25,26）

イエスキリストを信じる人をキリスト者といいます。新約聖書を記録したヘラス語では“クリスチアヌス“といいます。初代教会の時代にはアンティオキアの非クリスチャンたちがイエスキリストを信じる人を自分たちと区別して呼んだ名で、‘キリストを従う者’あるいは‘キリストに属した者’ という意味を持ちます。‘クリスチャン’には固有の特徴があります。
第一に、救贖の恩恵と真理を徹底的に信じます。罪の無い神様の独生の子である主イエスは私たち人間の罪を代わりに担って刑罰を受けられたので誰でも主イエスを信じれば救援が得られます。キリスト者はこういった救贖の恩恵と真理を思い込んでぐらつきません。
第二に、礼拝を捧げることを喜びます。誰でもイエスキリストを信じて救援を得ると神様を礼拝するのが存在の目的と理由になって生きていきます。お祈りして賛美して、神様に礼物を差し上げて、神様のお言葉を聞く礼拝を通じて神様と交通する時間の楽しみを分け合うことがクリスチャンの特徴であります。
第三に、聖書を考察して記録されたお言葉を信じて従います。聖書には神様のご善良で、喜ばれる、ご完全な意志が啓示されています。
聖書には信者たちの幸せのための神様のお約束とご命令のお言葉が記録されています。クリスチャンになると聖書を読んで黙想することを楽しんで、信じて従います。
第四に、信仰に伴う苦難と虐待を恐れないで堪えます。これは称賛と賞が予備されていることを知っているからです。信仰による苦難はキリストの苦難に参与することなのでこれを喜んで耐え忍ぶのがキリスト者の特徴であります。
第五に、神様のご権能とご善良でいらっしゃることを信じて適切な助けを切に求めます。そして、主の決定を素直に受け入れます。神様のご権能を信じるので口を大きく開けて求めるのがキリスト者の特徴であり、主のご善良を信じるので主の決定を素直に受け入れるのがキリスト者の特徴であります。
第六に、福音の伝播に努めます。キリスト教の信仰の究極的な目的は神様の子女になって永遠な天国で暮らすことです。死んだ後は機会がなく、一人の霊魂が天下より尊いということを知る限り、滅亡の道に行く不信者を見ると切ない気持ちになり、憐憫の情が湧き上がって福音を伝えるのがキリスト者の特徴であります。
第七に、主に差し上げるのを喜びます。神様より頂いたのがいかに多いのかと思い、神様に差し上げる楽しみが分かって日増しにもっと差し上げようとするのがキリスト者の特徴であります。
第八に、主に仕える心で献身して奉仕することに積極的に参与します。教会は自発的な献身と奉仕をする方がいつもいます。これはキリスト者の特徴から起こります。
第九に、天国への望みを持って生きていきます。キリスト者は死ぬことを嫌悪しません。天国への望みで別れの悲しみに勝ちます。そこで、願望のない他人のように悲しまない特徴があります。
第十に、主の再臨を待ちこがれます。イエスキリストの再臨の時、キリスト者は二つの大したことを経験することになります。復活を体験して（１テサ4：16,17）、千年王国の期間に王様のように暮らすことになります。（黙20：6）
したがって、主の再臨を待ち望んでいつも切実な心構えで生きていくのがキリスト者の特徴であります。皆様はこういった十点の特徴で自分の信仰状態を点検してみてください。
そして、この十点の特徴全部を明らかに現すキリスト者になってください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神様の前に伏せられて変化された人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

信仰に関する知識を論理的に説明する能力はなくても神様の光栄と能力に接して伏せられる経験をした人の信仰は堅固です．真の聖徒は神様の光栄と能力に接して伏せられるようになった経験があります．パウロ使徒は彼が使徒になる前には教会を大変迫害を加えました．彼はステパン執事を殺すのに加わりました．エルサレム各家を通いながら隠れているキリスチャンを探し出して監獄に閉じこめました．彼は脅威と殺気が一杯なのにユダヤ人の最高議会サンヘドリンに要求して議長である大祭司長が下がった逮捕委任状を受けていてダメセックを向けて行きました．ダメセックはエルサレムから徒歩で 5 日位かかる距離です．その頃こちらにはユダヤ人会堂が 30 個以上があったし 4 万人位のユダヤ人たちが暮していました．パウロはその所にいるユダヤ人キリスチャンたちを逮捕して来ようと思いました．そのようにキリスチャンを憎悪して福音の伝導を妨げたパウロが電撃的に変化されて福音を伝えるのにあらゆる生涯を捧げた使徒になる事が発生しました．

その事情は非常に驚くべきで劇的です．彼にサウルという名前とパウロという名前がいました．サウルはヘブライ語の名前でパウロはヘルラ語の名前で福音の傳導者になった初期までサウルという名前を使ったがその後にはパウロという名前を使いました．パウロは 小さな者という意味があります．サウルはダメセックにいるキリスチャンを逮捕するために動員された人々を導いてエルサレムを出発しました．彼らがダメセック都城に身近に至るようになった時でした．あの時忽然と空から正午の陽光よりもっと明るい光が彼らをかけて照らしました．皆が地に倒られましだ．あの時 “サウルよ サウルよ，あなたがどんな理由で私を逼迫するのか? と言う音が聞こえました．サウルが “神様，神様はどなたですか?” したら “私はあなたが逼迫する ナザレッド イエスだ.”としました．サウルはイエス様を神様だと呼びながら質問するのを “神様，私が何をしなければなりませんか?” しました．“起きて城邑の中に入って行きなさい．それではあなたが何をしなければならないかあなたに知らせてくれる人がいるでしょう.”と イエスが答えました．

仲間たちは光を見たし音は聞いたがその音の意味のメッセージは聞くことができなかったです．サウルとも言うパウロはダメセック路上で神様の光栄と能力に接してとても他人になりました．福音を妨げた者が福音の傳導者になりました．イエス様を対敵した者がイエス様のために生命を捧げる者になりました．教会を逼迫した者がアジアと地中海の向こう側あちこちに教会を建てました．パウロはこんなものを言いました．

私がイエスキリストとともに十字架にくぎつけられだのですから これからは私が住んだのではないです ただ私の中にイエスキリストが暮らしているのでもう私が肉体の中に住むことは私を愛し私のために自身をささげられた神のみ子を信じる信仰の中で住むことである”(ガラテヤ 2:20)．神様の光栄と能力に接して 伏せられる体験は身たけで 伏せられるのみを言うのではないです．心霊で起こる事件にならなければなりません．そうではなければ 伏せられるのが無意味です．パウロとお供した仲間の皆が 伏せられた．仲間たちには何らの変化が従わなかったです．
しかしパウロは変化されました．人々にイエスキリストの福音を伝えるのがもっぱらの目標で存在理由になりました．福音を伝えるのが自分に与えられた崇高な義務と認識しました．もし自分が福音を伝えなかったらこれは自分に大きい損失で不幸で悲しみで 災いになることで思いました．これからは住んでも主のために暮して死んでも 主のために たまらないからだから住むが死ぬが自分は神様の所有という考えをしました.（ピリピ 1：2 節）に “私の切実な期待と所望に付いてどんな事にでも恥ずかしくなくてただ前と一緒に今も完全に胆大で暮そうが死のうが私の体でキリストがあがめられるなるようにしようとであるから”しました.（コリント第２ 5：9 節，10 節に “そういうわけだから私たちは肉体を宿としているにしてもそれから離れているにしてもただ主を喜ばれる者になるのがこころから願いである力をつくすこれは私たちがすべて必ずキリストの審判台の前に現われてそれぞれ善し悪し間にその身で行ったことをよって受けようと思うのだ” しました．パウロ使徒は私たちがだ ‘キリストの審判台’前に現われるようになると言いました．キリストによって正義のあるようになった聖徒たちに ‘キリストの審判台’は刑罰を与える審判台ではないです．その所で 聖徒たちはそれぞれ肉身を持って暮す間にどの位福音を私は主の仕事に力をつくしたのかを判決受けるようになります.そして彼が行ったとおり賞を受けます．パウロ使徒はキリストの審判台の前に立つことを念頭に置いて歳月を惜しんで標柱に向けて専心全力しました．

神様の光栄と能力に接して 伏せられた人はパウロ使徒と一緒に変化されなければなりません．それなら誰でもパウロがダメセック路上で経験したことと同じ神秘体験ができますか? と質問する方がいるでしょう．誰もそんな体験をするようになるのではないです．要点はこのようです．前で言いったとおり神様の光栄と能力に接して 伏せられる体験はただ身で伏せられるのみを言うのではないです．心霊で起こる事件にならなければなりません．身が 伏せられる仕事がないとしても心霊で主神様の前に 伏せられる体験をしなければなりません．聖書を読むとか説教を聞いてあるいは祈るとか讃美している途中あるいは苦難と危機に会う時神様の光栄と能力を接するようになって神様の前に 伏せられる体験があるように願います．
神様の前に 伏せられたのは恥かしいのではないです．むしろ大きい福で幸運です．会堂場ヤイロが駆けて来て人々が見守る前でイエス様の足下伏せました．

その日ヤイロが彼の死んだ娘が生き返える恵みをこうむるようになりました．スロボニゲの女人はすべての障害を突破して遂にイエス様前に来て神様の足の前に伏せました．そして切に求めました．その時間彼の娘には鬼が放れました．神様の足下伏せるのが自発的な行為だか圧倒的な能力によってになったことだか重要なことはその心霊状態です．神様の光栄と能力に圧倒されて自我が壊れなければなりません．神様私が何をしましょうか? と問う姿勢にならなければなりません.ペテロが彼の同業者であるヨハネとヤコボといっしょに 漁をとりに出ました．ところで彼らが夜を明かすように網を投げたが漁が一匹もとらなかったです．彼らはむなしい心で湖畔で船をかき出ました．ペテロが網を洗っているのに案外にイエス様がペテロの空いた船に上がりました．それからはペテロに 船を陸地で少し離れしなさいと要求しましたペテロに 船を陸地で少し離れると見回しながら湖畔に人々が群がって来ていました.イエス様がまっすぐに群を向けて教え始めました．ところでイエス様のお話が彼のこころに掘り入れました．
イエス様がお話を終えてペテロに思いがけない指示をしました． 深いところに行って網を下げて漁を捕りなさいしました．漁夫の常識に完全に配置される指示です．ペテロが言うのを “先生，私どもが一日晩中苦労したが何も 捕ることができなかったが先生のお話に頼って網を下げます.” しました．いよいよ深い所に至るようになったペテロが網を投げました．すると漁がおびただしくとって網を繰り上げたら破れる具合になりました．ペテロが仲間たちを呼んだらヨハネとヤコボが船を持って来ました．網を引き上げて 捕った漁は二つの 船に一杯に満たしました．船が沈みそうでした．
ペテロがこれを見てイエス様の膝の前に伏せました．“神様，私にで去ってください．私は罪人です.” しました．イエス様がペテロにおっしゃるのを “恐ろしがらないでね．これからあなたは人々を釣るでしょう.” しました．ペテロとヨハネとヤコボは船を陸地につけてからすべてのものを捨てておいて イエス様に付き従いました．彼らに生の優先順位の変わる変化が起きました．
今までは 船と網が一番大事だったし漁を捕るのが一番重要な事でした．ところで今は神様がおっしゃった ‘人を釣る漁夫’になる使命が一番重いのがなりました．神様の光栄と能力を体験して神様の前に伏せるようになる人は生の態度が変わります.仕事の優先順位が変わられます．神様の善良さを固く信じます．最善をつくしながら神様の知恵にすべてのものを任せます．

聖徒の皆さんは聖書を読むとか説教を聞いてあるいは祈るとか賛美している途中あるいは苦難と危機に会う時神様の光栄と能力を接するように願います.神様の前に伏せられるのを体験するように願います．そして生の理由と目的が福音を述べ伝えと礼拝にあって また イエスキリストを尊くして嬉しくするのにある 聖徒になるように願います．